

ガンコ親父の

昔々、地球の片隅にうさぎと狐と猿の三匹の獣が住んでいた。前世は人間だった三匹は行いが悪かったので獣の姿にされてしまったという。ブラックジョークが好きで、人を騙すことが好きだった人間はカラスに生まれ変わり、ネチネチと他人の悪口を言いふらしていた人間は声を上げることのできないミミズにされていた。

三匹の獣はミミズよりはマシだと思っていたが、それでもみんな人間だった頃が忘れられずに、来世こそは人間として生まれ変われるように、「善いこと」をしようという心に決めていたのだった。

ある日、三匹が住む森に一人の老人が迷い込んだ。その松次郎という老人は「もう何日も酒もご飯も口にしていないんじゃないや」と言っていて気が失った。

猿は「一日一善」を続けていて、その日も午前中に自然歩道の掃除を無料奉仕していたが、ここは善い行いをさらに追加できる絶好のチャンスだと、木登りが得意だったこともあり、すぐに果物や木の実を集めてきて、弱っていた松次郎に食べさせた。

交渉ごとと長けていた狐は里に降りていき、人間から収穫されたばかりの美味しい穀物を貰い集めてきた。人助けのためだという「愛」を説けば、人間たちは快く差し出してくれることを知っていたのだ。

果物・木の実・穀物を与えられた松次郎の命は救われた。何もできていないうさぎは焦っていた。争いに弱い優しいうさぎは、生存競争が激しい野原に出かけること自体が苦痛だったし、勇気を出して草を採ってはきたものの、それは人間の食料になるはずもなかった。

「そんな栄養のないものじゃ、爺さんに善いことをしたなんて言えないぞ。残念だけど、君は来世も人間には戻れないよな」と狐は冷笑した。

猿と狐が持ってきたもので、必要なビタミンやたんぱく質は十分だったが、人間にはタンパク質や脂肪が足りていない。来世のこともあるが、それよりどうしても松次郎さんのためになりたい。うさぎは考え、悩んだが、ついに決意した。

「皆さん、今日は必ずいいものを持って帰りますから、鍋を熱くして待っていてください」と言っておうさぎは出かけたが、帰ってきたうさぎの手には何もなかった。「松次郎さん、よかったらこれ」と言っておうさぎは鍋に飛び込んだ。

松次郎はとっさに、うさぎを鍋から引きずり出した。「うさぎ君、人を助けようとする純粋で勇気ある君の精神には感動したぞ」と言っておうさぎは本来の神様の姿である帝釈天に姿を変えた。涙もろい帝釈天は目を赤くぼろぼろして「君の美しい心は自分のことしか考えない殺伐とした世の中の明るい希望である。光である」と言った。そして、その話を後世に伝えようと、一番月が美しい夜に「うさぎの形」を月に記した。

さて、現代に生きる松次郎はといえば、お月さんを見ながら「しまっちゅ伝蔵」を飲むのが好きだった。十月一日は十五夜だったけど、今度の二十九日は十三夜のお月見の日だ。小さい頃、うさぎの話聞いたことを思い出した。よし、孫に話してやるう。



奄美黒糖焼酎

しまっちゅ伝蔵

でんぞう

常圧蒸留

昔ながらの手造り
こだわり焼酎

喜界島の豊かな大地の恵と豊かな自然の中で、永年の伝統に受け継がれた製法でじっくりと醸しあげた「しまっちゅ伝蔵」黒糖焼酎の味を全面に出し昔ながらのkokoroのある味と香りです。



喜界島酒造株式会社
鹿児島県大島郡喜界町赤連2966番地12
TEL 0997(65)0251

25度
好評発売中

2009年10月喜界島は「日本で最も美しい村」連合に選ばれ加盟しました。喜界島酒造は、この活動を応援しています。



月うさぎに乾杯!!

<http://www.kurochu.jp>

お酒は20歳になってから。お酒は楽しく適量を。飲酒運転は法律で禁止されています。妊娠中や授乳期の飲酒はお控えください。